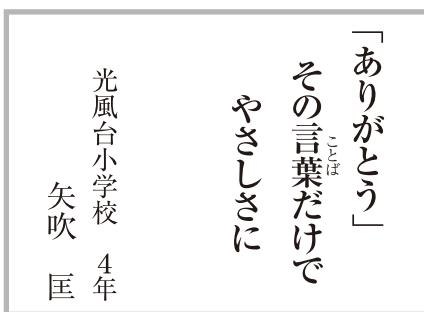


人権に関する作文・絵画(小中学生の部)入選作品

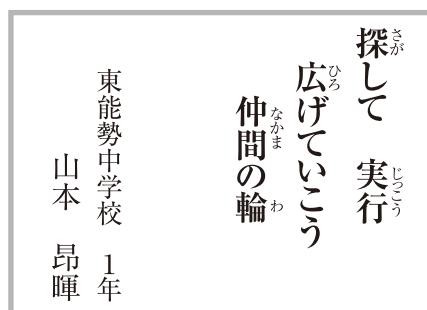
すべての町民の基本的個人権が尊重され、差別のない明るく住みよい町の実現に向け、人権に関する標語、絵画、作文を募集しました。その中から、入選作品を随時紹介します。(学年は平成30年度のものです)



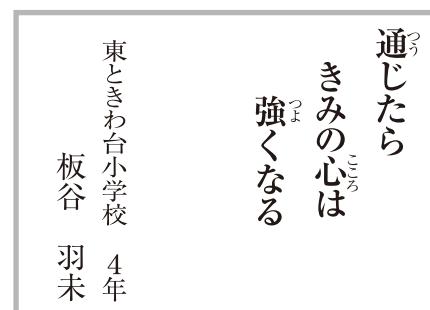
光風台小学校 4年 矢吹 匡



東能勢小学校 4年 糀谷 葵



東ときわ台小学校 4年 板谷 羽未



東ときわ台小学校 4年 山本 昂暉

「ぼくらがん」を読んで考えたこと

東ときわ台小学校 6年 横山 武郁

「ぼくらがん」という本と出会いて、『個性』について考えた。

のんびりとした人、行動力のある人、どんな時も前を向ける人、挑戦し続ける人、そしてこの主人公のように読み書きのできない人など、他にも色んな特徴をもっていて、それが一人ひとりの個性となっている。そんなそれぞれの個性のことを、人々は長所、短所とよび、それを自分の基準だけで良し悪しを決めてしまふ。そして悪いと決めたことを『欠点』として、その人の本質を見失してしまふ。この本を読むまでは、僕もそうだった。

しかし、この本を読んで気付いた。どんな人にとって良いところ、すぐれたところがあることを。でも、それでもかなわない人ひとりちがう。他人については簡単で普通にできるから、自分には難しいことがだれにだってあるはずだ。でも、だれにでも、みんな人にでも誇れるものが必ずある。

僕の場合、自分で考えて行動するのは苦手だが、このテーマについて深く考えるのは得意だ。この本のエディも頭の悪い子だと言っていたのに、最後には人の命を助けることができた。

このように、どんな人にも可能性があり、それを否定してはいけない。そして、見た目や先入観でその人を判断してはいけない。

僕はまだ、自分の良さを、得意なところを見つけられていない。でも今は、確実に一步歩進んで行きたい。その過程で自分の中にある何かに気づいたらいいなと思う。この本の中でも、がんが言っていた

「夜の後には朝が続いているように、必ずそのときはやつて来る。」

という言葉が今も心に残っている。これからも挫折しそうなとき、悲しいとき、この言葉を思い出し、前を向いて進んでいくと思つ。そして、他人に感謝してやるべきような人になりたい。



人口	男	女	世帯数
R元.5月末日	19,553人	9,333人	10,220人
前月比	-26人	-10人	-16人
人口前月比の内訳	41人	50人	5人
人の動き	転入等	転出等	死亡
			22人